

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	15-012	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Background risk of breast cancer influences the association between alcohol consumption and mammographic density. 乳がんの発症リスクは飲酒量と乳腺密度との関連に影響する		
執筆者		
Trinh T, Christensen SE, Brand JS, Cuzick J, Czene K, Sjölander A, Bälter K, Hall P.		
掲載誌		
Br J Cancer. 2015 Jun 30;113(1):159-65. doi: 10.1038/bjc.2015.185. Epub 2015 Jun 2.		
キーワード		PMID
飲酒量、乳腺密度、乳がん発症リスク、Tyrrer-Cuzick モデル		26035701
要 旨		
<p>目的： 飲酒は乳腺密度の増加作用を介して乳がんの発症リスクを高めることが示唆されている。乳がん発症のリスク別に飲酒量と乳腺密度との関連を検討した。</p> <p>方法： スウェーデンの地域住民女性 53,060 名（40-74 歳）を解析対象とした。がんや乳腺手術歴のある者、多量飲酒者および妊娠中の者を除外した。飲酒量は自記式質問票、乳腺密度はマンモグラフィーの画像を用いた自動計測、10 年後の乳がんリスク予測は BMI、家族歴、初潮年齢、経産回数、乳房の前癌病変の有無等の情報を組み込んだ Tyrrer-Cuzick モデルで評価した。乳腺密度の割合（%）は、乳腺密度（cm³）と総乳房容積（cm³）との比を用いた。飲酒量と乳腺密度および乳がんリスクとの関連は直線回帰モデルを用いて解析した。</p> <p>結果： 全対象者において乳腺密度（cm³）および乳腺密度の割合（%）は飲酒量と正相関を示し、高リスク群（≥5%）で最も強く認めた。1 日あたり 5.0g、10.0g、20.0g、30g の飲酒者は、非飲酒者に比べ、それぞれ 2.6cm³ (95%CI : 0.2, 4.9)、2.9cm³ (-0.6, 6.3)、4.6cm³ (1.5, 7.7)、10.8cm³ (4.8, 17.0) 高い乳腺密度を示した。また、アルコール 10g/日の増加により乳腺密度 2.4cm³ (1.4, 3.5) の上昇を認めた。低リスク群（<3.0%）では、飲酒量と乳腺密度に正相関の傾向がみられたが、中リスク群（<5.0%）では関連はみられなかった。</p> <p>結論： 飲酒による乳腺密度の増加が乳がん発症リスクを高めている可能性が示唆された。</p>		